

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590400081		
法人名	社会福祉法人比内ふくし会		
事業所名	グループホーム山王台		
所在地	秋田県大館市池内字上野234-1		
自己評価作成日	平成30年12月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.akita-longlife.net/evaluation/">http://www.akita-longlife.net/evaluation/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	平成31年1月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域とのかかわりを大切にし、行事への参加や交流を通じて安心して暮せる環境づくりを行っています。
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域と積極的に関わりながら利用者が安心して生活できる環境づくりに努め、入居の経緯や症状の違いによるケアの難しさを感じながらも「やってみよう」「やってみたい」とケアの目標を掲げ、一人ひとりの思いを受け止める支援を心がけています。
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの趣旨に照らした理念を作り、内部研修で理念教育を行っている。理念のもと、地域行事や住民との触れ合いを大切にしています。	年度初めに職員会議で前年度を振り返り、各ユニットで新たなケア目標を設定し、理念の実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に呼んでいただいたり、地域の方にボランティアに来ていただいたりしながら、交流の機会を持つようになっている。	町内会に入会し、地域の一員として交流しています。町内の行事には準備段階から参加協力し、地域の方や子ども達を招待して地域交流会を開催してホームの理解に繋がっています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	認知症の人の理解や支援の方法について、触れ合いを通じて、地域の方にも特性を理解して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様の状況、事故・研修報告、日々の暮らし・便りを通して情報提供をしている。委員の皆様意見を取り入れサービスの向上に努めている。	参加メンバーの立場から出させていただく意見を今後活かせるよう取り組んでいます。広報も会議資料として使用することで日常を理解いただく工夫をしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市の担当者が参加。現状報告をし、事業所の実情を理解して頂いている。	更新手続きに出向いている他、必要に応じて相談できる関係が築かれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修を行い定期的に教育を行っている。身体拘束委員会を開催し、身体拘束をしない様職員に周知し、拘束のないケアに取り組んでいる。	委員会が中心となって勉強会を行い、理解を深めています。利用者が何をしたいのか考えて対応を検討し、身体拘束に繋がらないケアに取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を行い虐待の原因となるストレスや知識不足の改善に努めている。虐待が行われない様職員同士が気を付けてケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について内部研修で学び、入居者の権利を大切にすする支援に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退所時についての規定を利用者・家族に説明し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所された際や運営推進会議等で意見や要望を聞き、ケアに反映させている。また、玄関に意見箱を用意している。	面会時等に気軽に話していただけるよう家族との信頼関係の構築に努め、出された意見、要望を運営に反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やカンファレンス開催時に意見交換しながら業務の見直しについて話し合い、改善につなげている。	職員の意見は管理者を通じて法人本部に伝えられています。定期的な職員会議及び必要に応じて随時ミーティングを行い、現場での課題等を話し合っ改善に繋げています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職位に応じた人材育成研修制度を導入し、向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加したり、職員に研修への参加を促したりしながらトレーニングを進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各事業所の委員会役員と、それぞれの事業所の現状や課題を話し合い、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談時に本人の訴えや要望等を伺い、安心してホームで生活できる関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談時に家族の意向も伺いながら、不安を和らげるよう相談に乗ったり、信頼を築けるよう、要望や意見をサービスに取り入れている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることは行って頂くようにしており、協力し助け合えるよう関係を築いている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や毎月のお便りで現状報告しながら、ケアについては家族と相談し同意を得て支援している。また、家族との関りが薄れていかない様協力をお願いしている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人のなじみの店(床屋・美容院)病院・薬局等、なじみの関係を保てるよう支援している。	家族にも協力を依頼してこれまで行ってきたことが継続できるよう努めています。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関わりが良好に行えるよう、性格や相性の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などで契約が終了しても、その後の対応について本人・家族が不安にならぬよう本人・家族と話し合い、相談に乗っている。色々な理由で退居の際には、居宅へつなぐ事や施設の説明など切れ目ない支援ができるよう対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人から得た意向や情報、気づきを記録し、支援に反映できるよう努めている。意思表示の少ない利用者においては、家族からの情報や職員の観察により、希望を推測しケアに活かしている。	日常生活の中から、また、ゆっくり話す時間もつくって要望を聞き出し、家族とも話し合っ て希望に沿った支援ができるよう努めています。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に本人・家族より得た情報をもとに、これまでの生活を理解したうえで、環境が変わってもその人らしく暮らせるよう、生きがいを持って暮らせるよう努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りやケース記録をもとに現状を共有し、一人一人の現状の把握に努めている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向を伺い、課題分析、カンファレンスを行い関係者の意見を取り入れ計画を作成している。	日々の記録を基にカンファレンスを行い、本人、家族の意向を反映した介護計画を作成しています。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りやケース記録を活用し情報共有し、気づきからケアの改善にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事へ参加し住民と交流したり、ボランティアの受け入れをし、地域の中で安全に楽しく暮らせるよう支援している。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ病院や薬局を継続して利用して頂いている。受診時には情報提供書を通じ適切な医療が受けれるよう関係性を築いている。	内科、歯科共に個々にかかりつけ医を持ち、希望に沿った支援が行われています。家族の受診介助には情報提供書で利用者の状況を医師に伝え、場合によっては職員も同行しています。薬局からは処方薬を届けていただいております、相談できる関係にあります。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師がいないので、受診時に情報を提供し相談している。情報提供書を用意し文章でも伝わるようにしている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に情報提供し、本人の状態を理解できるようにしている。退院時も病院側からの相談や情報収集し、内容の周知に努めている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した際の事業所の方針を説明している。入居後も、家族と相談しながら意思確認を行っている。	終末期には対応していないことから、利用者の状態に応じて家族の意向を確認し、次の支援に繋げていけるよう取り組んでいます。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置。緊急時対応マニュアルを作成し緊急時に備えている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルを各自確認し、周知に努めている。毎年、地域の住民を含めた火災時避難訓練を行っている。	地域の方が訓練に参加し、誘導、見守りをしていただいております。非常口から通じる避難経路の雪寄せは職員が行っています。また、ユニット間の連携はとれており、職員は利用者の状況を把握しています。	季節や時間によって対応が異なることを考慮し、夜間を想定した訓練を行うことによって発生する課題を抽出して有事に備える取り組みを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の尊厳を大切にし、プライバシーに配慮し傷つけない様声掛けや対応を行っている。	忙しい動作や職員同士の会話で利用者に不快な思いをさせないよう、また、排泄の失敗に配慮できる支援を心がけています。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の行動などから希望や思いをくみ取り、自己決定ができるよう支援している。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人がそれぞれのペースで生活を送ることができるよう、職員は連携して取り組んでいます。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみ・好み・おしゃれがあることを理解し支援している。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査をし楽しく食事ができるよう工夫したり、状態に合わせて食事形態を変えたりしている。盛り付けや配膳、片付け等職員と一緒にやっている。	その地域の季節の食事や好みのメニューを提供し、ホットプレートで皆でつくったものを食べる等、楽しく食事ができる工夫をしています。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの取れた食事を心がけている。水分摂取も嗜好を考慮し、十分な量を確保できるよう支援している。また記録にも残している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、嗽や歯磨きなど本人の状況に応じた口腔ケアを行っている。就寝時には義歯洗浄剤を使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄リズムに合わせてトイレ誘導を行い、声掛けしながらトイレでの排泄が行えるよう支援している。	その人のパターンに応じた支援が行われ、トイレで排泄しています。夜間はパッドを併用している方もおりますが、布パンツの利用者も多く、現状が維持できるように努力しています。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多めに摂って頂いたり、運動を促したりすることで便秘予防に取り組んでいる。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	無理強いすることなく本人の希望にできるだけ沿う様にしている。バイタル測定を行い体調や、都合に合わせることができるよう行っている。	週2回、日中の時間帯に入浴しています。拒否する方には誘導の仕方や日にちを変更したりして、その人毎に対応を工夫した支援が行われています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の習慣やその時々状況に合わせて休息したり、眠れるよう支援している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の副作用・用法・用量については、処方箋の都度確認しており、変化や不明なことについては、かかりつけ薬局に確認をしている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意なことや趣味、やりがいを感じる事を生活歴や現状から把握し、楽しみを持って過ごせるよう支援している。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	希望があれば町内を散歩したり、家族の協力で散髪や買い物など、本人の希望に沿った支援を行うよう努めている。	毎日ラジオ体操や廊下で歩行訓練を行い、機能の低下を防いで外出が楽しめるよう取り組み、バラ園や紅葉狩り、周辺の散歩に出かけています。また、プランターで花を育てて水やりをすることで、ホームに閉じこもらない支援を心がけています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理をしているが、希望があれば出し入れは自由にしており、本人の力量に応じて対応している。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を使用している入居者もいる。希望があれば家に電話し話をさせていただく等、力量に応じた支援をしている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔感を保つよう配慮し、室温・照明・TVの音量などを調整し、居心地よく過ごせるようにしている。	共用の部分は全て広く造られており、ホールも自由にゆっくり過ごせる空間となっています。保湿用タオルで乾燥対策し、プランターに花を植えたり、職員が持参した花を活けることで季節を感じることができるよう配慮しています。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の関係性を考慮し座席を用意しているが、一人になれる空間が少ないと感じ、検討している。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人のなじみの物や好みのもを置いて、過ごしやすい環境となるよう、在宅時の環境を伺いながら少しでも近づけるようにしている。	居室も広く、クローゼットが設けられおり、清掃が行き届いています。ベッドを本人の状態に合わせて配置する等、利用者の生活に配慮した環境づくりが行われています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・トイレの場所が分かる様表示している。歩行に支障のないよう、家具の配置を見直したり、危険のないよう、環境を整える努力をしている。		